

解体材の再利用推進

飲食店内装や木炭製品

アール・タチバナ

土木建築・解体工事のアール・タチバナ(富山市二口町、橋正則社長)は、解体材の再利用を推進している。老舗料亭の内装材を譲り受けて直営飲食店に使ったり、取り壊した家屋の廃材などを高機能な木炭製品に加工したりする新事業を展開。解体材を資源として再生することで、事業の幅を広げるとともに循環型社会の構築につながる狙いがある。

アール・タチバナは2017年3月、富山市北代に飲食店「呉山飛天」をオープンした。晴れた日には立山連峰を一望できる呉羽丘陵にある。貸家として使われていた木造家屋をリフォーム。14年に創業から300年の歴史を刻ん

だ同市桜木町の料亭「奥田屋」の解体工事の際に購入した格子高い格天井を移築した。店内でひとときわ目立つテーブルには、13年に閉店した同市布瀬本町の割烹「銀鱈」の床板だった神代杉を利用。射水市の寺院の天井に飾られて

いた天女の板絵は、店名の由来にもなっている。YK Kブラジル農園の豆を使ったコーヒーを楽しめる数少ないスポットとしても人気を集めている。



.....
奥田屋の格天井や神代杉のテーブルを備える呉山飛天の店内＝富山市北代

グループ会社のアイオーテイカーボン(同市松浦町、橋社長)は、家屋の解体や製材、木作業などの工程で出た木材、流木を木炭、チップなどに加工している。高機能木炭

は、高温炭化炉を使って木材を700～800度で熱して製造。湿気や臭いを吸着する性質を生かし、シュューキーパーや空気浄化用スティックなどに製品化している。

橋社長は、欧州では古い建築物をしっかりと保存しているとし「使える物は残して資源循環型社会を実現し、富山の文化を後世に伝えていかなければならない」と話した。